2012.2

Wonder Kit

AVトランスミッター

Audio Video Transmitter DP-10S

映像や音声を電波で飛ばす!

取扱説明書 Ver.1

販売元：ワンダーキットプロダクツ
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5-8-26
TEL(06)6644-4447 FAX(06)6644-4448
http://wonderkit.kyohritsu.com/

特長

本品は、地上波アナログ（2011年7月まで使用されていた一般的なTV放送）が地上波デジタル方式に移行し、使用できなくなったTV受像機に映像を送信させるためのユニットです。
入力は一般的な映像形式のNTSCを使用していますので、地上波デジタル用チューナや、VTR等のビデオ機器が使用できます。
送信は、UHF帯の地上波アナログ形式で送信されますので、従来のTVを受ける感覚で、映像を映し出す事ができます。

仕様

チャンネル数：7チャンネル(ch)
送信ch(UHF帯)：13,19,36,42,53,58,62ch
電波形式：地上波アナログ
映像入力方式：NTSC 1Vp-p
伝送距離：約4m(条件により異なる)
AV入力端子：RCA端子(赤/白/黄)1系統
音声形式：モノラル
電源電圧：DC12V(DC8-DC13V)
消費電流：平均110mA
使用温度範囲：0度C～+40度C
外形寸法：76(W)x73(D)x36(H)本体のみ
本体重量：152g

付属品

トランスミッター本体

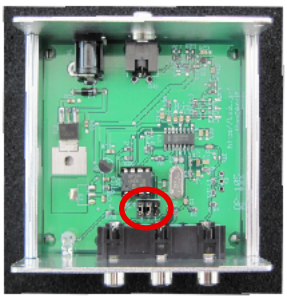
AVケーブル

アンテナケーブル

シガー電源ケーブル

チャンネル設定

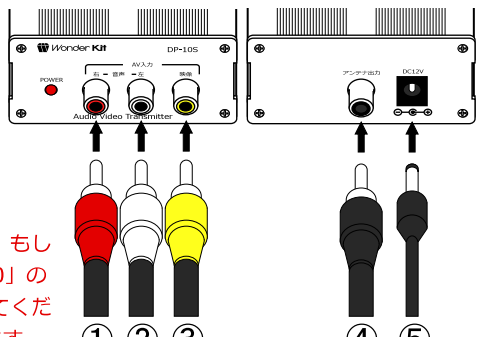
設定するチャンネルは、プラグをピンに挿入するか、外すかで設定します。
初期設定は「62ch」です。
設定を変更するには、一度ケースのフタを開ける必要があります。
＋ドライバーで本体のパネル上部の2箇所のネジを両面(計４箇所)外すと、上部のフタを開ける事ができます。
設定可能なチャンネル番号は７種類です。
ピンの挿入、除去と設定されるチャンネル番号の関係は表を参照して下さい。



13ch	19ch	36ch	42ch	53ch	58ch	62ch
3 2 1	3 2 1	3 2 1	3 2 1	3 2 1	3 2 1	3 2 1

接続

本体とAVケーブル、アンテナケーブル、電源ケーブルを接続します。
右図のようにケーブルを順番に接続して行きます。
①音声入力右（赤色）
②音声入力左（白色）
③映像入力（黄色）
④アンテナ出力（黒色）
⑤電源入力（黒色）
電源は必ずDC12V専用車、もしくは専用電源「WF-12050」のACアダプターから供給してください。その他では故障します。



電源が接続されると、前面パネルのランプが不規則に点滅します。

電源ランプで設定確認

電源投入中は、フロントパネルの赤色灯が不規則に点滅しますが、実際は規則に従った点滅を繰り返しています。
その規則は、設定しているUHFのch番号を表し、以下の様になっています。
長い消灯長い点灯：一連の番号の区切り、情報の開始点。
中くらいの消灯：10の位と1の位の分離。
点滅回数：数字を表す。
ch番号を読み取る場合は、長い消灯長い点灯を待ちます。
点滅を開始した時点で、点灯した回数を数えます。これが10の位になります。
数えている途中で、少し長い消灯が入ります。ここまでが10の位になります。
次に点滅を開始した個数を数え、長い消灯になるまでが、1の位になります。
　例えば：（点灯＝●　消灯＝○）
長い消灯長い点灯→○→●→○→●→○→●→○→●→○→●→○→●→
少し長い消灯→●→○→●→長い消灯（最初に戻る）
10の位は長い消灯を挟んで6回点滅したので数字の6、
1の位は少し長い消灯を挟んで2回点滅したので数字の2、
ここでは62chを表している事になります。
設定したchが判らなくなった場合でも外から確認できます。

ご家庭で使用の場合

　DP-10Sをご家庭で使用する場合は、オプションのDP-10S専用ACアダプター「WF-12050」を使用してください。
　DP-10Sの消費電流が少ないため、電源スイッチを設けていません。
長期間本器を使用しない場合は、電源ケーブルを抜いてください。
　DP-10Sは、UHF13,19,36,42,53,58,62chの映像が受信出来るアナログTVが必要となり、地上デジタル放送専用TVでは、ご使用になれません。

DP-10S専用ACアダプターのお求めは
共立エレショップ　http://eleshop.jp
品名：共立オリジナルACアダプタ DC12V 0.5A
型番：WF-12050

注意

炎天下の車内や直射日光の当たる場所に放置しないで下さい。
DP-10Sは防水では有りません。高温多湿・埃等の多い場所や水のかかる場所でのご使用はおやめ下さい。

DP-10Sはニッサン純正ナビには使用できません。

車載使用の場合はDC12V用シガープラグから電源を供給してください。
その際、キーをOFFで、DP-10Sの電源が停止する事を確認してください。

キーOFF時に電源が供給されたままになるタイプの車の場合、停車時でもDP-10Sが電源の消費を続けるため、バッテリー上がりの原因になります。

本器の消費電流が少ないため、電源スイッチを設けていませんので、長期間本器を使用しない場合は、電源ケーブルを抜いてください。

DP-10Sは、UHF13,19,36,42,53,58,62chの映像が受信出来るアナログTVが必要となり地上デジタル放送専用TVでは、ご使用になれません。

ご使用になられる地域やお使いの機種により、地上デジタル電波に干渉する可能性があり他の通信機器にも妨害を与える場合があります。
その際は使用を中止し、ch番号を変更する等の処置をお願いします。

本器とアナログTVとは、UHFの電波（地上アナログ形式）を通して接続されます。
送信用アンテナの先端をTV受像機の裏側、アンテナ線の近くに近づけるだけで受信可能状態になりますが、TVによってはこれだけでは受信できない可能性があります。

自動スキャンでTVのチャンネルを設定した場合、本来と異なる複数チャンネルにまたがって設定される場合があります。例えば、19chに設定して、自動スキャンを行った場合18ch、19ch、20chに設定される場合があります。
ノイズが多い画面になる場合はTVの受信chを変更してみてください。

また、電波を使用して映像を送信する性格上、次の様な事象が発生する可能性があります。

- 他の通信機器に妨害を与える場合があります。その際は使用を中止し、ch番号を変更する等の処置をお願いします。
- BSやCS受信設備の近くで本器を使用した場合、受信機器の受信状態が悪くなる可能性がありますので、受信用アンテナから離してご利用ください。
- 他の機器が発するノイズが画面上に映る場合があります。
- 電波送信の為、直接映像信号を接続する場合に比べて、画像は劣化します。
- DP-10SとTVとの距離は、周辺の状況と受像機の感度、室内アンテナの　有無で大幅に変化し、一定の受信レベルが無いと、映像が汚くなります。距離を短くする事が最善ですが、距離を開けたい場合は、DP-10Sの送信　アンテナを移動させて、安定に映る所を探してください。
- TVと本器の間を離している場合、周辺の状況で受信状態が変化します。
  例えば、本器とTVの間に人が入った場合、画像が乱れる場合があります。
- 電波を遮断する金属の板や、コンクリートの壁などが間に入ると、電波が　通らないか、著しく弱くなり、映す事ができなくなる場合があります。